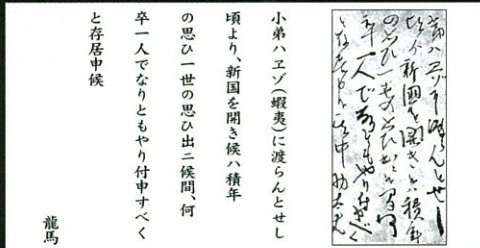


ごあいさつ

近代日本の夜明けと言われる大改革「明治維新」の中心人物である坂本龍馬は、あたかもこの改革のために生れて来たのではないかと思われまふ。わずか五年の間に、世界にも例がない無血革命をほぼ成し遂げ、三十三歳の若さで逝ったのでした。



これは、龍馬の手紙の一節です。何の関係もないと思われる坂本龍馬と北海道ですが、龍馬の想いは新たな大地、北海道に向いていました。なぜなら龍馬は、在京の過激浪士たちや、幕府の解体により職を失うであろう若い武士達のエネルギーを蝦夷地（北海道）の開拓と防衛に向かわせようという壮大な計画を立てていたのです。龍馬にとって北海道は理想と情熱を託す新天地でした。後年、この計画は明治新政府に受け継がれて「屯田兵」として実現し、今日の道民生活の基礎が築かれました。

坂本龍馬は北海道の父とも言ふべき人物なのです。残念ながら龍馬自身は北海道の地に足を踏み入れることはできませんでした。しかし、龍馬の養子となった甥の坂本直が、龍馬の意志を継いで慶応四年に函館にわたり、その後も坂本直寛（本家五代目）が明治三十一年に浦臼に入植し、一族共々北海道の礎となりました。本家八代目の坂本直行画伯は山岳画家として知られ、九代目の坂本登氏は当記念館名誉顧問であります。

坂本家ご子孫によって連綿と受け継がれてきた龍馬の蝦夷地開拓の夢は、開港百五十周年を迎える函館において、九代目坂本登氏によって北海道坂本龍馬記念館として結実しました。

幕末の国難とは相違あるものの、それ以上に難しい病んだ時代である今こそ、あの明治維新を成し遂げた龍馬に学ぶ時ではないでしょうか。

北海道坂本龍馬記念館は、単なる資料館ではなく、来館者の皆様に対し可能性や自己実現に向けたメッセージを発信し、未来を担う人々を応援する「龍馬塾」でありたいと願っています。



北海道坂本龍馬記念館に寄せて

坂本龍馬は、蝦夷開拓の意志を持ち行動をしていましたが果たせず、生涯を閉じてしまいました。しかし、その遺志を継いで坂本直寛が一族を引き連れて北海道に渡り、北海道開拓に大きな足跡を残しました。そこで、北海道に記念館を建立し、坂本龍馬の大きな意志の足跡を、道内はもとより日本中の皆さまに知っていただくことができれば、大変意義のあることと思っております。平成の龍馬が求められている時代に、その生き方・生き様が共感を呼ぶものと思ひます。

坂本家9代目当主・記念館顧問 坂本 登



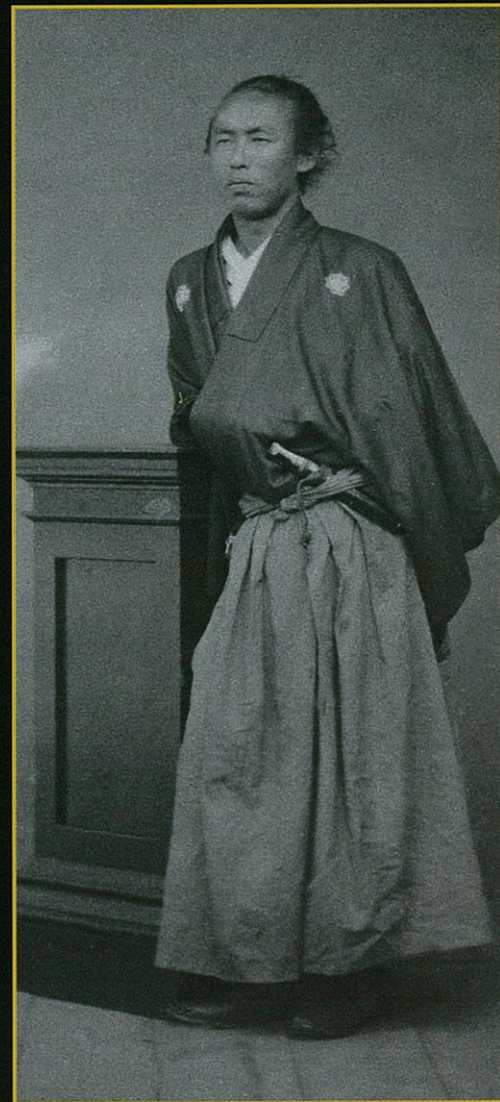
北海道坂本龍馬記念館

〒040-0053
北海道函館市末広町8番6号
TEL & FAX 0138-24-1115
URL <http://www.ryoma1115.com>
E-mail ryoma1115@amail.plala.or.jp
【開館時間】10:00～18:00



■市電「十字街」下車 電停正面 ■函館バス「十字街」バス停徒歩1分

Hokkaido Sakamoto Ryoma Museum



北海道坂本龍馬記念館

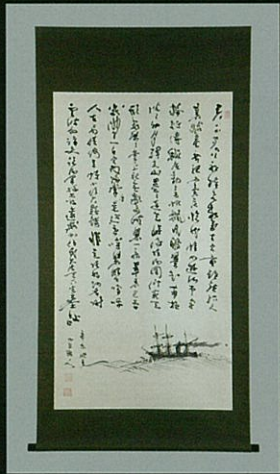
幕末維新と坂本家の足跡を知る歴史資料館

<http://www.ryoma1115.com>

展示史料の一部



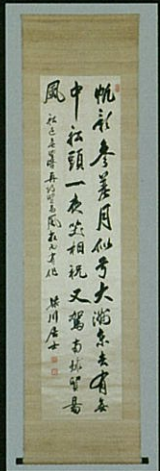
龍馬書簡 姪春猪宛て



勝海舟の八行書



七卿落図

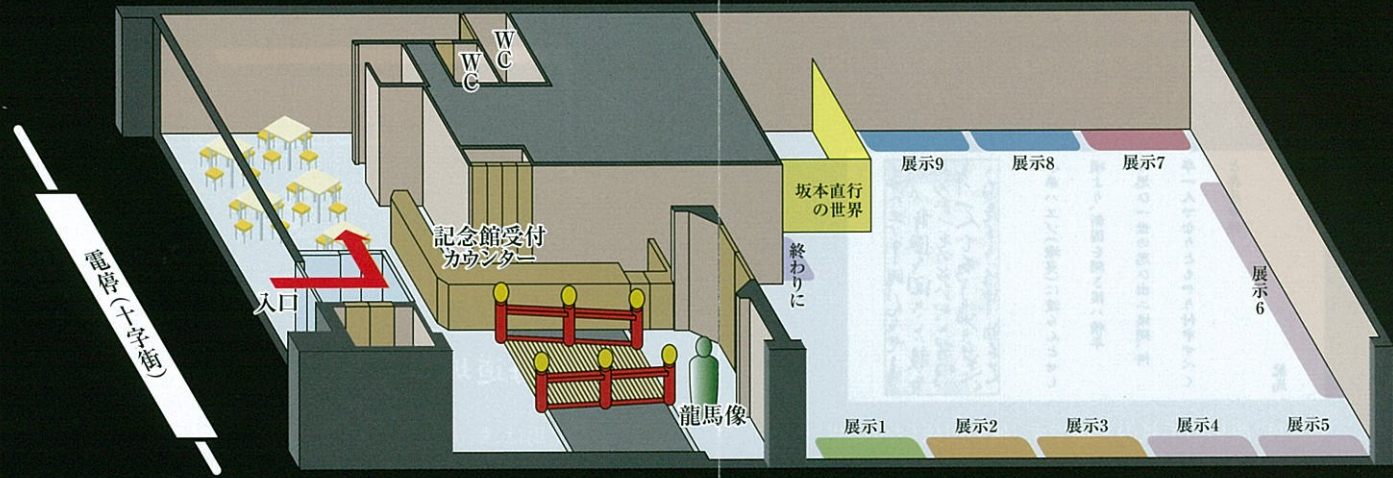


榎本武揚 七絶三行



松浦武四郎「アイヌ鶴の舞図」

幕末を駆け抜けた坂本龍馬と、龍馬の意志を継承した人々の貴重な史料を展示



展示1 龍馬の生立ちと時代

- ◆博多人形「龍馬脱藩前夜」
- ◆龍馬書簡 姪春猪宛て など

展示2 龍馬脱藩、勝海舟との出会い

- ◆勝海舟八行書
- ◆七卿落図
- ◆威臨丸模型 など

展示3 亀山社中と薩長同盟

- ◆西郷隆盛の書
- ◆西洋式ライフル銃
- ◆幕末のピストル など

展示4 寺田屋事変から海援隊へ

- ◆高杉晋作の書
- ◆和英通詞以呂波便覧(海援隊の和英辞書)
- ◆龍馬使用の湯呑茶碗 など

展示5 船中八策と大政奉還

- ◆後藤象二郎の書
- ◆山内容堂双幅 など

展示6 坂本龍馬年表・肖像

- ◆坂本龍馬略年表
- ◆坂本龍馬等身大肖像写真
- ◆刀(吉行)と短刀 など

展示7 龍馬が目指した蝦夷地(北海道)開拓

- ◆榎本武揚 七絶三行
- ◆松浦武四郎「アイヌ鶴の舞図」
- ◆坂本直使用の弁当箱 など

展示8 龍馬の志を継いだ人々

- ◆坂本家の名入り木箱
- ◆坂本彌太郎宛ての感謝状 など

展示9 龍馬後継者移住の足跡

- ◆地図資料
- ◆坂本家系図
- ◆坂本家の人々 など

坂本直行の世界

- ◆直行のアトリエ
- ◆直行と山
- ◆その他ゆかりの品々

終わりに

- ◆坂本龍馬肖像画(坂本登氏書入り)

展示史料は変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

外観



館内

